

## けいはんな学研都市でスマートシティエキスポ開催される！

5月21日・22日けいはんなオープンイノベーションセンターでスマートシティを支える最新の機器やソフトウェアなどの展示とセミナーが開催され多くの来客者で賑わいました。



柏原康夫氏のあいさつ



山田啓二氏のあいさつ



オープニングのテープカット



燃料電池自動車の展示



賑わう企業展示ブース



スマートシティセミナー

# ネットとまち 未来探る

京でスマートシティエキスポ

## 地元企業も技術披露

20日に京都市左京区の国立京都国際会館で始まった京都スマートシティエキスポでは、国内外の研究者や企業幹部が講演し、情報通信技術（ICT）を活用した効率的なまちづくりの未来像を探った。都市の課題解決には、あらゆる機器をインターネットにつなぐ「インターネット・オブ・シングス（IoT）」の活用が不可欠との意見が目立った。



情報通信技術を活用したまちづくりなどについて意見を交わす企業幹部や自治体関係者ら（京都市左京区・国立京都国際会館）

「今後、インターネットにつながるものが急増する。そこから集まる膨大なデータを宝に変えることが重要だ」。日本マイクロソフトの加治佐俊一最高技術責任者はこう強調し、データを機械で分析、学習し、将来予測に活用する技術も進んでいると紹介した。IoTを都市の課題解決に生かす取り組みは世界各地で進んでいる。

背景には急速な都市への人口流入があり、米マサチューセッツ工科大の研究者は「都市で電力の需要が増えているが、多くは人の移動に費やされている」と指摘。英ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンの研究者も「渋滞や建物の無駄な電力消費などの課題にIoTを使えば、日常的に改善を図ることができる」と強調した。京都企業も地域社会に貢献する独自の技術を披露した。日新電機の織田鐘正新エネルギー事業部長は下水処理場で未利用の廃熱やガス、水位の差を発電に生かす技術を示し、「産官学で連携し、効率的な電力システムを京都から世界に展開したい」と述べた。

不動産仲介の八清（京都市下京区）も、太陽光発電や断熱材などを使用して省エネルギー性を高めた京町家をアピールした。

21、22日は関西文化学術研究都市のけいはんなオープンイノベーションセンターでスマートシティを支える最新の機器やソフトウェアなどの展示会を繰り広げる。一般入場可能。無料。（三村智成）

2015年(平成27年)5月22日 金曜日

イスラエルのテクニオン大

# 学研に拠点開設へ

## 本年度内 企業、大学と共同研究

イスラエルのテクニオン・イスラエル工科大が関西文化学術研究



ボアズ・ゴラン 副学長

都市のけいはんなオーブンイノベーションセンター(木津川市・精華町、旧私のしごと館)に、京都の企業や大学、研究機関との連携拠点を本年度内にも開設する方針を固めたことが21日分かった。

同センターで開催中の京都スマートシティエキスポをめぐる連携の中で計画が浮上した。京都府も開設に協力することを決めた。医療やものづくり、環境、農業などの分野で共同研究プロジェクト

トを行う計画で、すでに医療分野の製品開発案件が具体化に向けて動き始めている。研究者の交流推進にもつなげる意向で、テクニオン大の卒業生が働く企業の紹介や、交換留学なども検討しているという。

テクニオン大は、米マサチューセッツ工科大と並ぶ教育水準とされる。ボアズ・ゴラン副学長は「京都は東京と違って落ち着いて研究ができ、事業を始めるのに最適な場所だ。京都の企業や大学は高い技術があり、互いに協力することで新しい道を開くことができる」と話している。

(三村智成)

# スマートシティ

府や国内外の企業など23者

## 今夏ネット設立

京都府やスペインなど国内外の自治体や企業など23者が21日、情報通信技術（ICT）を生かした効率的なまちづくりの構築で連携する「スマートシティ・グローバルネットワーク」を今夏に設立することで合意した。

合意したのは府や京都市、京田辺市、木津川市、精華町、スペイン・マラガ市、日新電機、通信事業の日本テレネット（京都市中京区）、米IT大手システムズなどの日本法人など。

先進事例を共有し、ICTを生かした地域課題の解決に連携して取り組む。企業の製品やサービスを自治体につなげるほか、スマートシティ関連の展覧会への共同出展などを計画している。

（三村智哉）